

平成28年 教育委員会第15回秘密会 会議録

日 時 平成28年 9 月13日（火）
場 所 九段小学校 2 階会議室

午後 4 時00分～午後 4 時33分

議事日程

第 2 協議

【子ども総務課】

（１）平成29年度予算編成方針の策定について

出席委員（４名）

教育委員長	中川 典子
教育委員長職務代理者	古川 紀子
教育委員	金丸 精孝
教育長	島崎 友四郎

出席職員（11名）

子ども部長	保科 彰吾
教育担当部長	小川 賢太郎
子ども総務課長事務取扱 子ども部参事	村木 久人
副参事（特命担当）	大井 良彦
子ども支援課長	加藤 伸昭
子育て推進課長	土谷 吉夫
児童・家庭支援センター所長	新井 玉江
子ども施設課長	小池 正敏
学務課長	柳 晃一
指導課長	杉浦 伸一
指導課 統括指導主事	高橋 美香

欠席委員（０名）

欠席職員（０名）

書記（２名）

子ども総務係長	久保 俊一
子ども総務係員	飯島 容子

中川 委員長 | ただいまから平成28年度教育委員会第15回定例会秘密会を開会します。

◎日程第2 協議

子ども総務課

(1) 平成29年度予算編成方針の策定について

中川委員長

日程第2、協議に入ります。

平成29年度予算編成方針の策定について、子ども総務課長より説明をお願いいたします。

子ども総務課長

それでは、本日の協議事項、平成29年度予算編成方針の策定についてご説明させていただきます。

本日、A3横の資料を1枚おつけしてございます。そちらのほうをごらんいただきたいと思います。

毎年度、予算編成をするに当たりまして、編成方針を各部で定めます。本日おつけしてございますのが、来年度の予算編成に当たりましての子ども部としての編成方針でございます。

一番上、予算編成方針（兼部組織目標）となっているところをごらんいただきたいと思います。

こちらにつきましては、前年度と同様の目標ということで掲げさせていただいてございます。

それからその次、その下の段から、来年度の目標、取組内容が記載されてございます。右側が、昨年度の取組内容ということになります。

こちらの資料の見方でございますが、平成29年度の取組内容というところで、網かけになっているところが前年度と変更があったところでございます。変更があったところ及び本年度、新たに設置された目標ということになります。斜線のところは、前年度で終了したということでございます。

では、主に網かけの部分につきまして、ご説明させていただきます。

まず、多様な子育てニーズへの対応ということで、特定園留保の解消ということでございます。こちら、本年度は兄弟姉妹が別々の園にならないようにという扱い、また育児休業明けの保育ニーズへの対応、こちらのほうを取組内容の中で明示しているところでございます。

それから次の保育サービスの質の向上というところでございますが、上の公立・私立の等しい保育サービスの提供というところでございますが、こちらは、29年度は幼児教育支援アドバイザーの選任、こちらのほうを明記しているところでございます。

それから、代替園庭の整備、その下の保育人材の確保、こちらについては、本年度は取組内容として掲げてございましたが、来年度の予算編成に当たりましては、こちらを取組内容として明記いたします。

それから、次の子育て施設の整備のところでございますが、四番町保育園・児童館の整備につきましては、本年度は整備構想の検討でございましたが、来年度は基本設計の検討に着手していきます。

次の、安心して子育てができ、子どもたちがすくすく育つ地域づくりを進めますのところでございますが、こちらにつきましては、児童相談所の開設準備ということを来年度は新たに取組内容として掲げさせていただきます。こちらにつきましては、児童福祉法の改正によりまして、区が独自に児童相談所を設置できるようになったことを受けまして、早期設置に向けての準備に取り組むというものでございます。

それから裏面に行きまして、一番上、特別な支援が必要な子どもへの指導というところでございますが、こちらにつきましては、29年度取組内容といたしましては、個別支援計画の作成というところが入ってきているところでございます。

その次、グローバル社会で活躍する資質・能力を育てるというところでございますが、初めの基礎・基本の着実な定着というところでございますが、こちらは、本年度は確かな学力の定着という表記でございましたが、より内容がわかるように「基礎・基本」という形で表記し直したものでございます。

それから、その下の運動能力の向上というところでございますが、こちらは、本年度は取組内容として掲げてございましたが、千代田区の子どもの現状等を踏まえまして、運動能力の向上、子どもたちの健康的な生活習慣と運動習慣の形成や定着、体力の向上を図るということを新たに取組内容として明示させていただきたいというふうに考えてございます。

それから、その一つ飛んで下になりますが、質の高い初等教育の推進というところでございます。こちらは、前年度までの調査検討の結果を踏まえまして、本年度の取り組みを進めていくという形になってございます。

それから、ずっと下のほうに行きまして、子どもを育む教育施設の整備というところでございますが、九段小・幼稚園の整備につきましては、本年度は平成30年4月の供用開始を目指していたところでございますが、工事の状況を踏まえまして、平成30年9月の供用開始を目指すというふうに変更してございます。

それから、お茶の水小学校・幼稚園の整備につきましては、調査検討により整理された課題等を踏まえながら、基本設計の検討に着手するというふうにしてございます。

最後の和泉小学校・いずみこども園の整備につきましては、本年度の基本構想から、来年度は基本設計に着手していきたいということを取組内容として掲げているところでございます。

こちらの内容につきましては、また庁内でさらに検討を加えまして、平成29年度の予算編成方針ということで、全体のものをまとめたものを公表することになってございますので、公表に合わせて公開したいというふうに考えてございます。

ご説明は、以上でございます。

中川委員長

説明は終わりました。この件に関しまして、ご意見、ご質問等がありまし

	たらお願いいたします。 金丸委員。
金 丸 委 員	先ほどの26のグローバル社会で活躍するということなんです、主体的、創造的に問題解決できる人材の育成の最初のところ、括弧でくくられたテーマだけが変わっていて、中身は変わってないですね。これは、テーマを変えることで、具体的に何か変わるのでしょうか。 26番のグローバル社会で活躍する資質・能力を育て、主体的・協働的云々と書いてあるところの上側、主体的、創造的に…… 左側でいえば15のところ。要するに、鍵括弧で書いてあるところは確かに違っているんだけど、具体的な説明のところでは何一つ変わっていないので、それで何か変わったというふうに言えるものなのかなと。だとすれば、それは一体何なのかなと思ったものですから。
指導課統括指導主事	こちらにつきましては、今まで特化してきたのが少人数指導といったところで、それを目的にと言っていたところなんです、その大もとのところに立ち戻りますと、やはり基礎・基本の着実な定着ということが本来のテーマでございますので、とにかく少人数をするということではなくて、一番の目的である基礎・基本を確実に定着していくのだということで、内容の変更を明確にしております。 ただ、実際の手だては非常に近いと思いますが、テーマが明確化することで、学校のほうに依頼していくときにも、分かりやすくなるというふうに考えております。
教育担当部長	若干、ちょっと補足させていただきますけれども、千代田の子どもたちの基礎的な学力だったり、そういったあたりが、必ずしも高い水準に今ない。特に体力面では非常に低い水準にあると。そんな現状があって、やっている中身は昨年度と変わりはないんですが、基本に立ち返った、その学力や体力をきちんと育んでいくというあたりをはっきりさせるために、今、ごらんいただいている次の項目、これは新たに設けたわけでございますけれども、こういったものとセットで、きちんと意識づけをして、明確にして、これから取り組んでいくということを、この方針の中ではっきりさせるという意味合いで、このような表現にさせていただいたということでございます。
中 川 委 員 長	基本に立ち返ったわけですね。 ほかはいかがですか。 古川委員。
古 川 委 員	2番の特定園留保の解消なんですけれども、これは、具体的にはどういうふうに対応されていくのかなということなんですけど、申込時のポイントの項目を、ちょっと千代田区なりに変えとか、産休明けの保育ニーズの対応を最優先課題とするとありますが、どういったふうに。
子ども支援課長	今、お話しいただいたとおり、ポイント、ポイントというのは入所指数と我々のほうは言わせていただいていますけれども、一般の方は大体ポイントと言っていますけれども、そのポイントの見直しをまずは考えており

ます。第2回定例会のほうの区長の招集挨拶の中でも、特定園で、特に兄弟同園といったところについては言及いただきました。やっぱり同じ園で兄弟通っていただいたほうが送り迎え、また行事、土曜日、日曜日で、また違う行事があったりというのは、やはり大変だという認識をしておりますので、基本的にそれを解消すべく、指数という形でポイントの見直しを図っていききたいなというふうに思っています。

また、育児休業明けについても、大体、最近は1歳になる前から、また復帰をしたいとお考えの方もいらっしゃるかと思いますので、国が、待機児童数を発表したときに、前回、昨年度の取組内容のところで予約制度の検討みたいなのを、国のほうから持ち出されてはいるんですが、ちょっとなかなか、正直難しいところがあるんですが、何らか工夫をしながら、ちょっと対応を、そちらもさせていただきたいなと思います。まだ、具体化を模索しているといったところで、そちらのほうは、ちょっとまだこれからの検討というところでございます。

中川委員長
古川委員

ほかはいかがですか。

幾つか。7番なんですけれども、教育機関の子育て支援人材と子育て世帯との交流促進なんですけど、以前、大学の中での育児イベントのご紹介も定例会でしていただいたんですけれども、今、どのくらい、どこの学校と事業が進んでいるのかとか、今後、それを膨らませていくのか。

子ども支援課長

区内には5つ保育士の養成校があるんですが、今、その中の二つ、篠原専門学校さんと、上智社会福祉専門学校さんと共同で、この事業を進めさせていただいております。今後、それ以外の共立女子大学、あと大妻女子大学、それと大原さんもお持ちだということなので、ちょっとそちらのほうにも声がけをさせていただいて、どういうことができるのか、特に我々とする理想の姿は専門学校で養成している保育士さんが、そのまま私立の保育園のほうにお勤めいただいて、就職も決まると。保育園のほうも、保育士さんが、そのまま、見知った方がやるという。となると、我々としても、それを今後支援がしやすくなるといったところの三つのウイン・ウイン・ウインを何とかやっていきたいなというのが、この事業の主眼の目的であります。ですので、養成校さんについて、できれば区内にある全ての養成校さんと一緒に、この事業を携えてできたらなというふうに考えております。

古川委員

あと、児童相談所なんですけれども、早期設置に向けて準備にこれから取り組まれるということなんですけど、大体何年後とか、そういう大まかなものというのはあるんでしょうか。

児童・家庭支援センター所長

千代田区といたしましては、具体的には、はっきり決まっていますが、4年、5年後を目指して来年から準備を進めてまいりたいと思っています。

中川委員長

5年もかかるんですか。

児童・家庭支援センター所長

国が5年を目途に設置にかかる支援をする、とあり、23区5年を目途に準備を進めている。お隣の中央区は10年後を目途に検討をしているんですけど。

教 育 長	区長が、早期に整備するという考え方は議会でも説明されています。課題になるのは、開設に向けて、かなりの専門職、児童福祉司さんとか児童心理士さんとか、そういう専門職を養成しなくてはならないということと、設置するに当たっては児童相談所の施設整備が必要であり、今、構想しているのは一時保護所についても設置したいと思っています。 それから、保健所のほうも関わる子育て包括支援センターとの一体化といったところも議論になっていますので、その辺の課題を整理する中でやっていきたいと思っています。そのために、若干時間はかかりますけれども、4年ないし5年のスパンの中では、場所も決めて人材も養成して、きちんと区としての児童相談所を設置していきたいというふうに思っています。
古 川 委 員	すみません、あと2点だけ。 13の特別な支援が必要な子どもへの指導というところなんですが、個別支援計画の作成を、これからされるということですね。
指導課統括指導主事	はい、これまでもしていたのですが、ことしの5月に国会で発達障害者支援法の一部改正がありまして、生まれてから就労に至るまで、切れ目ない支援ということが示されましたので、そうした支援をしていくために必要な情報も切れ目なく受け渡していくといえますか、そうしたことのために、こうした支援計画を作成し、それを適切に、次の機関へと情報をつないでいくことによって、その子どもを支援したいと、そういったことでございます。
古 川 委 員	どこが作成して、どこの機関まで申し送りなんでしょうか。
指導課統括指導主事	これにつきましては、当然、保護者の了解のもと作成しますので、その当該の関係する機関ができるだけ若い時代から作成していき、そしてそれを引き継いでいく。また、必要に応じて修正を加えていくというものです。
古 川 委 員	それは、中学まで。
指導課統括指導主事	就労ということになっておりますので、想定される場所は18というふうに。
古 川 委 員	じゃあ、中学卒業後も、ほかの高校なり、いろんな施設があると思いますが、そこにどんどん引き継がれていくものなんですか。
指導課統括指導主事	はい。示されているのですが、ただ、多分懸念されているところは、今最初に申し上げました保護者了解のもとというふうに申し上げたことです。個人情報とのかかわりもありますので、そういったところを、今、どうやって制度化できるかといったところを慎重に議論しているところでございます。
古 川 委 員	じゃあ、これからと。わかりました。 あともう1点なんですけど、19で、教員の資質・能力の向上等による質の高い教育の推進。こちらで、前年度からずっとなんですが、先生方が子どもたちと向き合う時間を確保するとともにとありますが、具体的に、また来年度さらにと、こういうことというのはあるんでしょうか。例えば、前年度は区費講師の活用についても載っていて、区内で十分に、たくさんの区費講師の方が活動していただいているというのは承知しているんですけども、今年度は、そこが抜けて、ほかが同じ内容なんですが、今年度、新たに

指導課長

というのはあるんでしょうか。

教員の多忙感に対して、一番のポイントは、正規の先生方は授業の中できちっと勝負するという視点に立つことで、例えば放課後の部活動も中学校では大きな負担になっておりまして、専門性がないのに受け持たなければいけないという現状もあります。麴町中では多くの外部講師を招聘して放課後活動を実施しています。そうした取り組みを、さらに充実、見直しを図っていくことで、先生方の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を充実させています。

教育長

今年度、一つは、校務支援システムの見直しというのをやっています。今も学校の事務作業を、コンピューターを使って処理しているんですけど、使い勝手が悪かったり、効率が悪かったりしているので、今年度、その見直しを、機器の更新とあわせてやっています。来年度から、それが運用されますので、今よりも現場の先生方の事務の負担は改善されるというふうに思っています。

もう一つは、各学校でやっている、いろんな事務のうち、経常的な事務、予算に基づく物品購入とかの定型的な事務については、できれば集約化したいというふうに思っています。来年度のことですから、まだ予算とか、組織とか、人員の調整が要るんですけども、現場の事務の集中化なり効率化についても可能であれば取り組みたいというふうに思っています。

古川委員

すみません、校務支援システムというのがよくわからないんですが、これは、このシステムが整うと、先生方の今お持ちのお仕事が、もっと効率化ができるということでしょうか。

指導課統括指導主事

学校の中では、さまざまな文書、書類等の作業もございます。そういったものを、特に学校の、そうした実際の教務関係や、また事務作業関係で使えるようなソフト等もいっぱい入れたシステムを、これから導入しようということで、今、作業に取り組んでおります。そうすると、例えば、学校では、毎日、学校日誌というのを、副校長が毎日、1日1枚書くことになっているんですね。今、学校の現状では、手書きで書いたりとか、自分たちでエクセルをつくって、そこに打ち込んだりというような作業をして、そうすると、それぞれにフォームも違ってと不便があるんですけど、今度の校務支援システムでは、その学校日誌というのを開いて、ぱんとやると、教育委員会事務局でも情報も共有もできますし、必要に応じて印刷すると、全く同じ形でできますし、そのデータが、出張データが、ほかの、例えば先生たちの出張とか、転入者の情報とか、1回入れておくと、ほかのデータにも使えるということで、そういう意味では、非常に事務作業が軽減されるといったものがございます。そうしたことが、29年度導入されるため、少し教員にも時間が生まれるのではないかとこのように思っております。

古川委員

わかりました。ありがとうございます。

あと、先生方の資質・能力を向上させる機会というのは、これは、例えば研修とかということになるのかなと思うんですけど、先ほどちょっと金丸委

指導課統括指導主事

員からも話が出たんですが、学校に伺ったときに、いろんな研修があつて、それもいいけれども、英語の授業の視察のときでしたか、富士見小のときでしたか、講師の先生に来ていただいて、具体的な授業のやり方を教わったのが、とても役立ったというお話があつて、それで、たくさん用意されている研修の中身が、ちょっと私はわからないんですけれども、そのようであつてほしいなと。あと、明日からの授業にも使えるようなものであつてほしい。また、クラスをぐいぐい引っ張っていついていただけている先生の授業を、ほかの先生方が見られるような機会がふえていくといいなと思っています。

ありがとうございます。

今、おっしゃっていたのは、富士見小学校に行ったときの英語活動教育コーディネーターのことだと思います。実際に、ご指摘のとおり、ただ話を聞く研修というよりは、実際に、こういうものをやるといいですよというのを見せてもらったり、実際、その方が授業をかわりにやってくれて、こういうふうにやればいいんだというのを見せていただいたりということで、そういう意味では、千代田区としては、とても、そういった力のある講師を派遣していると思いますので、できるだけ、これからも学校の要望に合った形で講師が派遣できるようにしていきたいと思っています。

古川委員
中川委員長

よろしくお願いします。

まず、17番ですか、中等教育学校の成果と課題の検証という文言が出てきますけれども、やっぱりここは、10周年を迎えて、きちんと総括をしなければいけないんじゃないかなというふうに思うんですけど、具体的には、どんなようなことを考えていらっしゃるでしょう。例えば、10年たったので卒業生がどのようになっているかということもきちんと追跡しなきゃいけないんじゃないかなと思うんですが。そのあたりは、どういうふうに。今、何か予定はありますか。

教 育 長

昨年度も至大荘で事件があつて、それについての当面の対応はしていますけれども、中川委員長から、教育委員会の席でも10年を節目ということで、卒業した方に対するアンケート調査のようなものも必要ではないかというご意見をいただいています。これから、もう少し具体化する中で、その辺のことも含めて、対応していきたいというふうに思います。

中川委員長

それから、さきの教員の資質、能力を向上させる問題なんですけども、先生だけじゃなくて、今、副校長の業務の負担が大き過ぎるということで、大分いろいろ問題になっていますけども、やっぱり副校長に対する支援というのを、考えないといけない。

指 導 課 長

先ほど高橋統括が言った学校日誌は、副校長が書かなければいけないのですが、それを公務支援システムによって、今後大分に軽減できたり、学校によっては、調査関係の事務も、かなり負担になっているようなところがありますので、今回、このシステムによって、スピーディーに仕上げて、そのデータを最後に、副校長先生がまとめて打ち込むなどの一連の作業がパソコン上でLANを介して可能となり、そうした部分でも、かなり負担の軽減が図ら

	れると予測しております。
中川委員長	あと、これは、これからの課題かもしれないんですが、ICT教育が、推進されて、随分と使われるようになってきたんですけども、1つだけちょっと。タブレットが配置されたのはいいんですけども、タブレットに付属するキーボードが欲しいという意見も結構多いんですね。打ち込むのは、手でやるよりもキーボードが欲しいという。それは、やっぱり一緒にしておいたほうがよかったという声もどこかで聞いたことがあるんですけども、今後の課題として、キーボードをどうするか。
指導課統括指導主事	それで、タブレットについては、二クラス分として80台を各校に配っているのですが、コンピューター室のほうは、いろいろ選択はありましたけれども、デスクトップもしくはノートパソコンということでキーボードがついたものを配布しています。ですので、そういったもので対応はできるというふうに考えております。
指導課長	今後は、タブレットとキーボードが対になっていて、分離できるようなものも視野に入れながら検討したいと思います。
中川委員長	そうですね、ぜひ。これから先の課題として。 あと、子どもたちの危機管理の意識の向上というところで、もしできましたらば、地域と一緒に災害訓練に参加するというような機会をつくってあげられるといいかなというふうに思っているんですけども。自分の地域の防災訓練と一緒にできると、子どもにできることを自覚させることができと思うので、その辺、もしできれば。
指導課統括指導主事	今、現状で、たしか和泉小学校がやっている。
古川委員	和泉はやってます。高学年が参加していて、大きな公園で、地域の方と共に割と大々的に行っています。
教育担当部長	あれは伝統的にそうですね。かなりの回数で、実は和泉に関してはやっているという現状がある。今後の話としては、麴町中学校も、やはり地元と一緒にやるという、そういう動きもあるということで、災害ということですので、実際、学校がやっている時間に災害に遭ったり、あるいはまた全然また違った発想なんですけども、被災者ではなくて、災害時の担い手としても、例えば中学生でなんかいえば、体力も十分あったりします。ですから、そういうことで融合しながらやっていくというのは今後の流れというふうになっていくと思いますので、今、具体的に、そういう流れになっているところが幾つかありますけども、今後はそういう形になっていくのではないかなと思います。
指導課長	今後、小学校もコミュニティースクール化していけば、防災への取組みも大事な要素の一つになると思います。
中川委員長	ありがとうございます。 私はそれですけど、ほかはいかがでしょうか。
教育長	今回の学習指導要領の改訂でも、地域に開かれた教育課程の編成ということが言われています。今、中川委員長がおっしゃった防災教育にしても、地

域との連携を強めるという方向は今後の学習指導の方向性とも、合致してくる部分があると思いますので、各学校が教育課程等を組んでいく過程で、教育委員会のほうからも、その辺の視点を、小中学校含めて持ってもらうように、頼んでいきたいと思います。

中川委員長

ほかは。

じゃあ、ご意見ご質問、よろしいでしょうか。

(なし)

中川委員長

それでは、以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日の定例会を閉会いたします。